

第41回国際P2M学会春季研究発表大会結果報告

大会実行委員長 千葉工業大学 新谷幸弘

大会実行副委員長 千葉工業大学 下田篤

1. はじめに

2026年4月19日(日)、千葉工業大学津田沼キャンパスにて、「国際P2M 学会のミッションとビジョンの深耕」を大会テーマとした第41回国際P2M学会研究発表大会が開催されました(図1)。今回の大会も対面形式で実施されました。



図1 会場(千葉工業大学津田沼キャンパス)

2. 実施内容

2.1 研究発表

今回は、A会場「P2Mの応用と手法」6件、B会場「P2Mに基づく社会実装」6件、C会場「マネジメント人材の育成」6件、計18件の研究発表が行われ、活発で有益な討論や意見交換が行われました(図2～図4)。これらの18件の発表の中から、坂上慶子氏「プログラムマネジャーとプロジェクトマネジャーに求められるコンピテンシーに関する試論ーP2MとIPMA ICB、PMI PMCDFの比較を通じて」、加藤亨氏「産学連携による社会人マネジメント系博士人材育成システムの構築に関する研究ーP2M(Program and Project Management)を基盤とした論文作成支援とカウンセリング機能の設計ー」の2件が発表奨励賞を受賞しました。



図2 A会場での発表の様子



図3 B会場での発表の様子



図4 C会場での発表の様子

2.2. 総会

午後からは、総会が開催されました。亀山秀雄会長、久保裕史副会長、白井久美子副会長、山本秀男事務局長が登壇され、2025年度の活動成果報告、並びに2026年度の活動計画等が審議、報告されました（図5）。総会の最後には2025年度学会表彰の発表があり、中野健太郎氏が研究奨励賞（図6）を、玉木欽也氏が教育功労賞（図7）を、沖浦文彦氏が学会活動功労賞（図8）を受賞しました。



図5 総会の様子



図6 研究奨励賞の様子



図7 教育功労賞の様子



図8 学会活動功労賞の様子

2.3. 開会挨拶・開催校挨拶

午後の部に先立ち、亀山秀雄会長から開会挨拶（図9）、千葉工業大学 未来変革科学部 学部長 関研一教授から開催校挨拶（図10）が行われました。



図9 開会挨拶の様子



図10 開催校挨拶の様子

2.4. 基調講演

本大会では、高橋真木子氏（金沢工業大学 大学院イノベーションマネジメント研究科 教授）による基調講演「科学的知見を社会価値へ変える人材とはーURAの経験から考える博士人材の可能性ー」が行われました。本講演では、大学における研究推進支援人材（URA）の導入と普

及の経緯を踏まえ、研究マネジメントの観点から、研究成果の社会実装を支える仕組みと人材のあり方についてお話いただきました。さらに、博士人材が有する高度な専門性、課題設定力、研究遂行力に着目し、研究開発や社会課題解決型プログラムにおいて博士人材が果たしうる新たな役割と可能性についてご講演いただきました（図11～図12）。



図11 基調講演者の高橋真木子氏



図12 基調講演の様子

2.5. ラウンドテーブル

話題提供者として、亀山秀雄氏（国際P2M学会会長）、白井久美子氏（国際P2M学会副会長）、岡田久典氏（早稲田大学 上級研究員）に登壇していただき、本稿筆者ら（新谷幸弘、下田篤）の司会進行によるラウンドテーブルが開催されました（図11～図13）。本ラウンドテーブルでは、「国際P2M学会のミッションとビジョンの深耕」をテーマに、Vision2030、博士人材・URAの育成、R&D・社会実装マネジメント等について話題提供と討論が行われました。議論では、研究成果の社会実装を加速するうえで、P2Mの知見を備えたマネジメント専門職人材の育成・供給が重要であり、学協会による支援体制の構築が必要であることが確認されました。



図11 オープニングの様子



図12 議論の様子（1）



図13 議論の様子（2）

2.6. 閉会挨拶

本大会の締め括りとして、久保裕史副会長から閉会挨拶、次回大会開催校である早稲田大学 岡田久典氏から次回大会開催案内が行われました。

2.7. 意見交換会

閉会挨拶の後、会場をラウンジに移し、意見交換会が開催されました（図14）。意見交換会では、立食形式での飲食を楽しみながら、多くの参加者が、自由闊達に意見交換や討論を行うことができました。



図14 意見交換会の様子

3. おわりに

大会実行の企画・運営の大役を賜り、今回は2度目の開催であるものの未だ未だ不慣れな状況の中、多くの人々に支えられ、大会を完遂することができました。ご登壇頂きました基調講演者、話題提供者の皆さま、最新の研究成果を発表頂きました研究発表者の皆さま、大会に参加頂き議論を深めて頂きました全ての参加者の皆さま、貴重な経験の機会を与えて頂きました国際P2M学会理事の皆さまに、心より感謝申し上げます。